

高齢者用肺炎球菌ワクチンの予防接種を受ける方へ（説明書）

～よく読んでから予診票を記入しましょう～

1. 肺炎球菌感染症について

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、咳やくしゃみなどを通じて飛沫感染します。日本人の約 5～10%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が増殖し、下気道や血流中へ侵入することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

2. 接種対象者

以下に該当する方が対象です

- ① 65 歳の方
- ② 60 歳以上 65 歳未満の者であって、心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能の障害またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有する者として厚生労働省令で定めるもの

3. 高齢者用肺炎球菌ワクチンの効果について

肺炎球菌には、100 種類以上の血清型があり、定期接種で使用される沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）は、そのうち 20 種類の血清型を対象としたワクチンであり、この 20 種類の血清型は、成人侵襲性肺炎球菌感染症（※）の原因の約 5～6 割を占めるとい研究結果があります。

また、沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）は、血清型に依らない侵襲性肺炎球菌感染症全体の 3～4 割程度を予防する効果があるという研究結果があります。

※侵襲性感染症とは、本来は菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

4. 予診票の記入について

予診票は予防接種を受けるにあたって、医師にご自分の健康状態を伝える大切な用紙です。内容をよく読み、治療中の病気や飲んでいる薬など、もれがないように記入しましょう。心配なことがある場合は医師に十分相談しましょう。

予診票の下にあるご本人の署名は、医師の診察の結果を聞いてから記入します。

5. 沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）の安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応が見られることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシー、痙攣（熱性痙攣含む）、血小板減少性紫斑病がみられることがあります。

接種後気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関にお問い合わせください。

発現割合	主な副反応
30%以上	疼痛・圧痛※（59.6%）、筋肉痛（38.2%）、疲労（30.3%）
10%以上	頭痛（21.7%）、関節痛（11.6%）
1%以上	紅斑、腫脹

※ワクチンを接種した部位の症状

6. 予防接種を受けることができない方（予防接種不適合者）

- 明らかな発熱がある方（37.5℃以上）
- 重篤な急性疾患にかかっている方
- 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方
- その他医師から不適合な状態であると判断された方

7. 予防接種に注意が必要な方

- 免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方
- 予防接種を受けて2日以内に発熱や全身性発疹などのアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- 過去に痙攣をおこしたことがある方
- 血小板減少症、凝固障害、抗凝固療法を受けている方

8. 他の予防接種との同時接種・接種間隔

- 医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン、帯状疱疹ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。また、他のワクチンとの接種間隔に制限はありません。

9. 予防接種後の注意

- 予防接種後30分間は急な副反応がおこることがあります。医師とすぐに連絡を取れるようにしましょう。（注射後24時間は体調に注意しましょう）
- 入浴は差し支えありません。注射した所を強くこすることはやめましょう。
- 接種当日はいつもの生活をしてかまいません。激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

10. 予防接種被害者救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

制度の利用を申し込む時は、予防接種を受けたときに住民票を登録していた市町村にご相談ください。

令和8年4月

小郡市健康課